

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社きかんし

共に祈り、支えよう！

Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

記
目標額 10億円(国内のみ)
期間 2011年7月1日～2015年3月31日
振替番号 00110-6-639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31
2012年2月
教団救援対策本部長 石橋秀雄

初動支援から長期支援へ

大震災発生一周年を前にして

東日本大震災発生から、間もなく1年が経とうとしている。初動の緊急支援から、教団も教区・教会においても、精一杯の救援活動を行うことができたことを改めて、主に感謝したい。教団の支援体制は今、瓦解撤去に象徴される初動支援から、『会堂再建』を中核とした『教会再建』という長期支援に移行しようとしている。

『教会再建』は単に教会のみの事柄ではなく、被災した地域社会の復興に仕えるための土台となることなのである。そこで今までの教団の救援活動をふりかえり、今後の救援活動を推進するために役立てたい。

I. 大震災翌日の3月12日(土)、内藤留幸総幹事のものと、『救援対策委員会』を設置し、救援活動を開始した。この委員会設置は、第37総会期第1回常議委員会でも可決された『救援対策基金に関する運用規定』に基づいている。直ちに実行したことは、①広範囲に亘る被災地の状況把握のための調査隊派遣(石橋議長を隊長とし4名)。

②国内募金開始(社会委員長名で)。
③広報活動開始(新報・HP、その他を活用して)。
④被災3教区に初動活動資金として各1千万円と見舞金50万円を送金。
⑤各教区との連絡を密にしながら、少し遅れて設置された救援対策本部の活動に協力する形で支援活動を仙台、石巻、遠野の3箇所に拠点を定めていくことになった。

救援対策委員会は6月末までの働きを終え、対策本部活動の下に入った。II. 東日本大震災救援対策本部設置が、3月22日の常任議員会の議を経て決まり、4月18日の常議会で正式に承認された。本部の構成員は10名(三役、常議員5名、それにキリスト教社会事業同盟、キリスト教学校関係者各1名づつ)。

基本方針は「地域の人々の救いに仕える教会の再建をめざして」。本部長には教団議長が当たり、被災教区議長の常時陪席も決まり、教団全体として責任を果たしていくことになった。すでに8回にわたる会議を重ねてきている。募金大綱を定め、2015年3月末までに国内10億円(海外12億円)を目標にして各教会に呼びかけ、現時点では両方とも2億円を越えている。

全本部委員も被災地域を視察し、被災状況が判明するにつれて対策方法も少しずつ変化し、多岐にわたっていく。特に放射能被災者への支援対策は教会幼稚園・保育園への空調設備支援のほか難しい課題をかかえているのが実状である。対策本部の救援活動で、すでに決定したキリスト教社会事業の2施設への支援や長期にわたる被災した学生の奨学金援助なども忘れてはならない事柄である。被災地を抱えた教区への、今日までの援助状況を調べてみると、直接教区へ支援金を送ったケースもかなりあり、そこには各教区・教会の独自性がみられる。それらの支援は、被災地の人々がそれによって立ち上がる勇気を与えられてきたのであるから、とても意味のある支援であったと思う。しかし、これからは会堂再建という長期にわたる高額な支援対策をしていくわけであるから、教団に属する全教会も関係諸団体も、できるだけ救援対策本部が担う教団ルート一本に絞って、救援募金活動を進めていってほしい。

本部としても、できる限り公平性を保ち、しかも積極的に会堂再建支援を推進していきたいと考えている。それには国内募金の目標10億円を達成していくことが必須条件なのである。皆様今後も祈りをこめて募金に協力してほしい。なお、東日本大震災救援対策本部主催で、8月29日(30日)に実施された緊急シンポジウム『現代日本の危機とキリスト教』も意味ある集いであった。

東日本大震災でわれわれキリスト教会が問われたことは何かを、教会牧師、神学者、キリスト教学校教育者、社会事業者たちが、それぞれの立場から掘り下げた示唆に富んだ発題をされた。すでに教団出版局から同名の本として刊行されているので是非購入して読んでいただきたい。

地域の人々の救いに仕える教会再建を

総幹事
内藤留幸



『現代日本の危機とキリスト教』出版

8月末に銀座教会で行われました緊急シンポジウム「現代の危機とキリスト教」が本になって出版されました。私たちは何を聞き何を語るか、この本に、いっぱい詰まっています。
身近な方々へのご紹介を是非お勧めします。

《発売日》 12月19日
《価格》 1,995円(内150円は救援募金)
《内容》

教会は神からどのような問いかけを聞くのか、それに答えて何を語っていくのか、東日本大震災と原発事故を、信仰者としてどう受け止め、何を語るか。
教会、神学、キリスト教教育、キリスト教社会福祉の4つの視点から考える。

- 【はじめに】 石橋秀雄
◆開会礼拝説教 「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」(北紀吉)
◆教団総会議長挨拶 「神の迫り」(石橋秀雄)
◆発題1 キリスト教学校の視点から 「何を学び、何をやりだしていくか」(中山昇)
◆発題2 神学者の視点から 「なぜ神は『悲しみの人』になられたのか」(芳賀力)
◆発題3 キリスト教社会福祉の視点から 「悲しみと苦しみに寄り添う」(稲松義人)
◆発題4 教会・教師の視点から 「教会は何を語っていくのか」(岡本知之)
◆特別講演 「土曜日のキリスト」(大木英夫)
◆閉会の祈り
【あとがき】 藤掛順一

日本基督教団救援対策本部・編
日本基督教団・刊

『東北教区3・11東日本大震災1周年の集い』

～祈りを合わせ 復興を求めて～

◎日時 2012年3月20日(火)
10時30分～15時40分
◎場所 仙台青葉荘教会とエマオ
入場無料(支援のための席上献金あり)

◎目的 震災から1年を覚え、主にある慰めといやしを祈る。それとともに神の御心に沿った真の復興とは何かとみんなで問い、語り合い、祈り合い、ここから主にあるところの希望ある将来への足がかり、また出発点とする。

◎内容 前半は真の復興とは何かをふまえ、向かうべき将来の教会および伝道の形についてシンポジウムを開き、全体で意見交換していく。後半は具体的に教区各委員会と教団救援委員からのメッセージ。その後、東日本大震災のこと、また何よりこの時がレントの期間中であることを覚え「灰の礼拝」と題する礼拝と祈禱の時をもつ。

◎問合せ 東北教区宣教部
中村英之(Tel・Fax 023
312215733 新
庄新生教会)





雄大な富士を眺望し、身も心もノビノビと

短期保養プログラム「こひつじキャンプ」

放射能から子どもの「命」を守る

富士・山中湖畔に福島の子どもたちが

東京YMCAの協力のもとに

放射能から子どもの「命」を守るプロジェクト、短期保養プログラム第1回「こひつじキャンプ」が、東京YMCA山中湖センターで、1月13日（金）から15日（日）まで行われました。岡本知之救援対策本部副本部長が企画したもので、福島県内の親子を対象としています。

このキャンプでは主催を日本基督教団救援対策本部とし、共催として会津放射能情報センター、東京YMCAの協力のもと実施されました。7組24名が申し込み、当日は5組17名（キャンプセル2組）の参加者が与えられました。

キャンプリーダーには、東京YMCA南コミュニティセンターの館長松本竹弘氏が中心となって、3名の経験豊富な方々がつき、

キャンプリーダーには、東京YMCA南コミュニティセンターの館長松本竹弘氏が中心となって、3名の経験豊富な方々がつき、

教団からは、救援対策本部より前北未史が参加致しました。3日目には東京から東京YMCA副総主事・本部事務局長の本田真也氏も駆けつけてくださいました。

第1回目は、就学に支障のないプログラム作りを心がけ、金曜日の16時会場開放情報センターを出発し、途中郡山教会にて残りの参加者と合流。郡山教会では丹羽利夫牧師のお祈りで、参加者たちは心を一つにし、これから始まるキャンプの無事を、主にお祈りすることから始めました。

会津から郡山までは荒天で道路事情も悪く、予定の到着時間より少し遅れましたが、参加者たちは、待っている間も郡山教会の礼拝堂でYMCAのリーダーたちとキャンプソングを歌ったり、楽しいひとときを過ごすことができました。

今回初めて教会の中に入った参加者の方も多くあり、近隣の教会を訪れていただく良き機会になったことは喜ばしいことでした。

さて、バスが山中湖センターに到着したのは夜半過ぎ、翌日は、幼少のお子さんたちに無理がないよう、前日の移動の疲れを十分にとる時間を持つ配慮がなされ、朝の集いなどはYMCAの現場の判断により、取りやめました。

今回の「こひつじキャンプ」では、同様の趣旨の他の保養キャンプに参加できない幼少のお子さんや、重度のアレルギーをお持ちのお子さんなども、YMCAの豊富な経験と実績から、きめ細かい対応をしていただき、安心して参加していただけたことも大きな特徴の一つです。

2日目のこの日は、キャンプの目玉でもあるチョイスプログラムの各種用意され、午前中はワカサギ釣りに行く家族、スケートに行く親子、山中湖畔をのんびり散歩する家族があり、また宿題をするお子さんたちもいました。

それぞれが思い思いに好きなことをすることによって、日常性も大切にしながら、気兼ねなく保養地で過ごしていただくことが狙いです。

ワカサギ釣りに参加してくださったのは郡山市から参加のご家族。湖畔より小さなテンドーボート（足船）に乗って釣り舟に向かいま

す。子どもたちは湖上からは見上げる雄大な富士山のその迫力に圧倒されていました。

釣り船でワカサギを釣りはじめて約3時間、生き餌に少々戸惑っていたのも束の間、一匹釣れると勢いがつき、全員夢中です。一方、スケートをチョイスした家族は伊達市から参



テンドーボート（足船）に乗って



名人の指導のもと、ついに！

ちが本領を発揮！ゲーム大会を行いました。各家族お互いに仲良くなったのが嬉しい、とても和やかで目一杯楽しめました。また、この日の昼食は前日のチョイスプログラムでつり上げた「ワカサギ」を大ぶらにしておいしく頂き、獲物を釣った子どもたちはつい得

意欲…。さて、いよいよ後はバスに乗るだけ、という出発前のわずかな時間も子どもたちにとっては大切な遊び時間。グラウンドで大縄跳び大会をしたり、女の子たちがサッカーを楽しんだり、最後の最後まで濃密なキャンプとなりました。

（前北未史報）
4面「人ひととき」欄参照

放射能被害からの心身の回復を

教団災害対策本部では1月13日～15日まで、東京YMCA山中湖センターにおいて、福島県内在住の家族を対象としたリフレッシュキャンプ（通称「こひつじキャンプ」）の第1回を実施した。

これは福島第一原発の事故により放射能被害が心配される地域の方々のために、心身の回復を目的として行うもので、第1回のキャンプには17名の参加があった。今後もセシウム137やストロンチウム90など、半減期の長い放射性物質の影響はなお続くと思われ、この長期低線量被爆の影響から、いくらかでも子どもたちの命を守りたいとの願いによって策定されたプログラムである。

国に対する除染や補償要求は強力に行わなければならないが、個々人のレベルにおいても放射性物質の解毒・排泄、ならびに放射線や活性酸素によって傷つけられた細胞や組織を修復する機能を高めることが求められている。そのためにも、教団としてはこのプログラムを今後

広報面など多くの課題も残したが、参加してくださったお一人おひとりのお気持ちを大切に受け止めて、この3日間を無事に過ごさせていただけただけに感謝です。参加者の一人のお母さんからは「閉村式には思わず涙があふれてしまいました。本当に楽しい思い出を、ありがとうございます」という言葉も頂きました。

今後も継続的に保養プログラムを続けることで、原発事故の被害に遭われた方々の痛みに寄り添い、子どもたちのかけがえのない「命」を守ることに、ほんの少しでもお手伝いできたのがサッカを楽しんだり、最後の最後まで濃密なキャンプとなりました。

も継続的に実施していきたいと考えている
なおこのプログラムの実施に当たっては、受け入れを担当された東京YMCAならびに現地窓口となってくださった会津放射能情報センターの皆様にご協力いただきました。

また郡山教会には出発拠点を置かせていただくなど教会諸団体の協力なしには為し得なかったプログラムである。諸般のご協力に心より御礼申し上げます。
（岡本知之・救援対策本部副本部長）

過去に赴任した4教会中3教会で、計5回泥棒に遭った。その内1回は空き巣ではない。学校から帰った娘が、玄関で見知らぬ男に、「こんにちわ」と挨拶して、階上の教師館に入った。その男こそが、泥棒だった。事務室から、現金数万円と数百万円の通帳が盗まれた。通帳分は直ぐに停止し、被害はなかったが。▼教会



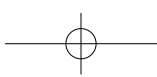
▼過去に赴任した4教会中3教会で、計5回泥棒に遭った。その内1回は空き巣ではない。学校から帰った娘が、玄関で見知らぬ男に、「こんにちわ」と挨拶して、階上の教師館に入った。その男こそが、泥棒だった。事務室から、現金数万円と数百万円の通帳が盗まれた。通帳分は直ぐに停止し、被害はなかったが。▼教会

▼過去に赴任した4教会中3教会で、計5回泥棒に遭った。その内1回は空き巣ではない。学校から帰った娘が、玄関で見知らぬ男に、「こんにちわ」と挨拶して、階上の教師館に入った。その男こそが、泥棒だった。事務室から、現金数万円と数百万円の通帳が盗まれた。通帳分は直ぐに停止し、被害はなかったが。▼教会

▼過去に赴任した4教会中3教会で、計5回泥棒に遭った。その内1回は空き巣ではない。学校から帰った娘が、玄関で見知らぬ男に、「こんにちわ」と挨拶して、階上の教師館に入った。その男こそが、泥棒だった。事務室から、現金数万円と数百万円の通帳が盗まれた。通帳分は直ぐに停止し、被害はなかったが。▼教会

▼過去に赴任した4教会中3教会で、計5回泥棒に遭った。その内1回は空き巣ではない。学校から帰った娘が、玄関で見知らぬ男に、「こんにちわ」と挨拶して、階上の教師館に入った。その男こそが、泥棒だった。事務室から、現金数万円と数百万円の通帳が盗まれた。通帳分は直ぐに停止し、被害はなかったが。▼教会

▼過去に赴任した4教会中3教会で、計5回泥棒に遭った。その内1回は空き巣ではない。学校から帰った娘が、玄関で見知らぬ男に、「こんにちわ」と挨拶して、階上の教師館に入った。その男こそが、泥棒だった。事務室から、現金数万円と数百万円の通帳が盗まれた。通帳分は直ぐに停止し、被害はなかったが。▼教会



(3) 2012年2月18日

教 団 新 報

(第三種郵便物認可)

第4742号

募金、国内外共に2億円を超える

教団救援対策本部第8回会議

1月10日、教団会議室にて、教団救援対策本部第8回会議を行った。

震災から10カ月が経過し、厳しい寒さの中で生活している被災者のことを

える石橋秀雄本部長の祈りをもって始められた。

まず、1月5日現在での、国内募金総額が2億1273万1987円、海外からの献金総額が2億117万

3258円となっていることが報告された。

続いて、海外献金プロジェクト小委員会および救援対策本部事務局(11号室)から、仙台エマオ、石巻エマオ、遠野自殺防止センタ

東・東京(千葉支区)の各教区から、被災教会・関係施設等の近況、被災教会の再建・復興支援活動(教会堂の補修工事のために教区が資金を立替えたことや支

援二ニュースを発行していることなどの報告のほか、各教区で取り扱っている震災に関する会計の収支報告がなされた。

審議事項においては、支援金の配分に関して、「被災教会支援金配分要綱(案)」(支援対象を教会・牧師館とするなど)と「教会堂・牧師館再建・復興工

その他、仙台エマオ専従者および11号室有償ボランティア雇用の決定、臨床牧会訓練のための寄付講座を東北大学文学部に設置するための支援の決定、「311246 祈りの時」の集会計画等について協議した。

次回2月27日、教団会議室にて開催する。

中村 暉氏(隠退教師)

矢板 就(主横田満朗) 江曾島 就(代平山正道) 久留米樹原就(主玉城 豊 岩城 辞(代寺島 謙



厳寒のもとでの被災者の生活を思いつつ

自殺防止センターによる仮設住宅戸別訪問活動について、同市社会福祉協議会との意思疎通に行き違いがあり、釜石での同センターによる活動を一旦休止せざるを得なくなったことの報告を受け、協議の結果、同センターの活動に関しては、新たに次の計画を練ることとした。

第37総会期の第5回信仰職制委員会が1月6日(金)に6名の委員出席により教団会議室で行われた。

【諮問】 沖縄教区の教区規則変更申請について この度沖縄教区より、教区規則変更承認申請が出された。その内容は、教区総会議員について、「教会堂・牧師館再建・復興工

【諮問】 沖縄教区の教区規則変更申請について この度沖縄教区より、教区規則変更承認申請が出された。その内容は、教区総会議員について、「教会堂・牧師館再建・復興工

【諮問】 沖縄教区の教区規則変更申請について この度沖縄教区より、教区規則変更承認申請が出された。その内容は、教区総会議員について、「教会堂・牧師館再建・復興工

【諮問】 沖縄教区の教区規則変更申請について この度沖縄教区より、教区規則変更承認申請が出された。その内容は、教区総会議員について、「教会堂・牧師館再建・復興工

美藤 章氏(近江八幡教会)

勝田台 八千代市勝田台北 3-13-15 DCE異動 駒場エナ就 海老澤敦子

大伝道命令にしたがう「教団伝道資金機構」

第6回教区活動連帯金検討委員会

第6回教区活動連帯金検討委員会は、2012年1月19日教団会議室において開かれた。

今回は、先に提案した仮称「伝道資金機構」について、全国財務委員長会議、常議員会等で寄せられた意見を真摯に受け止め、整理検討することとした。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

第6回教区活動連帯金検討委員会は、2012年1月19日教団会議室において開かれた。今回は、先に提案した仮称「伝道資金機構」について、全国財務委員長会議、常議員会等で寄せられた意見を真摯に受け止め、整理検討することとした。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

「伝道資金機構」の骨子は以下のとおりである。

消息

花盛勲一氏(隠退教師)



11年11月4日逝去、84歳。

宮崎県に生まれる。'60年日本聖書神学校を卒業、同年

新伝道所主任に赴任、北立川

伝道所、祖師谷伝道所を経て、

'91年より'99年まで馬見

労働教会を牧会し、01年に

隠退した。遺族は妻・花盛

音羽さん。

加邊永吉氏(隠退教師)

11年12月1日逝去、81歳。

事務局報

補教師登録

金 修貞

(2011.12.5受允)

周藤卓史

(2011.12.11受允)

事務局長 国際関係委員会(10544)

《公募》

WCCボランティア

◎WCC中央委員会

クレタ島(ジュネーヴ

で事前研修)

8月下旬〜9月上旬

30歳まで

◎自己負担 往復旅費

◎応募期限 3月15日(必着)、書類

選考・面接あり

◎問合先 国際関係委員

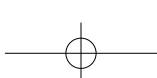
会(10544)

会(10544)

会(10544)

会(10544)

会(10544)



牧師のパートナー

私のパートナーは牧師であり園長です。私の理想とする牧師像をことごとく打ち砕かれてきたので、42年目に回想することは意義深いと思い、筆をとりました。

1970年に、私たちは結婚し、鴻巣教会に着任。当時は、子育て真只中、6年目に義父の介護のため夫の両親と同居となりました。二人して、日曜日は勿論ですが月曜日から土曜は附属幼稚園に出勤し、様々な、問題が起きれば、まず夫に相談しました。元来、結婚願望の無い私でしたが、イエス様の喜ばれる生き方”を切望していたので、全ては、イエスのように”と思い働きました。

1981年に夫は、越谷教会に招聘され、私も転会しました。そのうちに、持病の慢性中耳炎が悪化したため、手術をしましたが、回復せず両耳補聴器をつけて現在に至っております。

それにしても、しいられた恵みというべきか、キリスト教保育の業を通して幼子達から”神の愛”という恵みを数えることを教えられました。幼稚園科の礼拝、CSの小学校



上:三女の結婚式を終えて(2011.11.19)
下:キャンドルサービス、聖歌隊メンバーと共に

今の私に与えられた使命

石橋由美子
(越谷教会員)

しかし、長女、次女と年子の娘たちの子育てに疲れ果てていた上に三女の出産の時、聖地旅行のチャップレンとして、イスラエルに旅立ってしまった夫、日常茶飯事に起る「コママンガのようなハプニング」は妻のせいと言い放ち笑い話にしてしまう夫、そういう夫は、言い訳が上

の礼拝でのみ言葉を語るための苦しみも、用いられることによって喜びに変わりました。

夫については、突然「明日〇〇へ行くから君も行くように」と言われます。毎度のことですが、いつもこの調子です。私の対応もこの41年間で少しずつ上達してきました。

実は新婚時代、私が夫を支えていく”と張り切っておりましたのに、耳の持病が悪化した頃からなぜか、保育終了後になると耳鼻科通いにつき合ってくる夫がいました。なんと耳の不自由な妻の支えになってくれたのです。

手いのか、頭の回転が早いのか。結局そのような夫を理解しようと、努力して来ましたが疲れ果ててしまいました。

”自分が変わらなければ”と思い、「キリスト教カウンセリングセンター」の学びをしました。学んでいく内に課題は積もっていくのです。そんな中、男女は協力し合えても、理解することは難しい”(河合雄雄著、こころの処方箋)の言葉に納得し夫を理解することは止めました。夫と話し合い理解出来ないことを楽しむことにしました。夫は私のどのような怒りの言葉も笑い飛ばし楽しんでい

ます。そんな夫に私も呆れ果てて、遂にはその笑いに合わせてしまいます。

以前のことですが、当教会の女子青年の書いたカードに「夢みるゆみ子さん」と書いてあったのです。最近、「こんな感じだったの？」と伺ったら「パステルカラーで春のようでした! (冬なのに)」と懐しんで話して下さい、私は不思議と癒されたのです。

私は本当に欠けの多い者です。でも、毎週の礼拝で主のみ言葉を示されているのです。それとある交わりを重ねて歩んで行きたいと思ひます。

それが、今、夫と私に与えられている使命と思ひます。

東京信徒会・講演会
「伝道の幻を共有しよう」
—教会は島である—

語り続けよ。
黙っているな。

島は孤独ではないと小橋孝一講師



断して東日本大震災を憶えて「11246の祈り」を捧げた。

講演は、パウロのコリント伝道の始まりから説き起こされた。伝道の幻を信徒たちの時代に遡って共有する想いで迫った。

あのパウロでさえ、「私は衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安であった」と書いている。

主は幻の中でパウロにいわれた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな」それは、「私があなたがたと共にいる」だからあなたがたを襲って危害を加えるものはいない」「この町には、私の民が大勢いるからだ」。

「語り続けよ。黙っているな」これは、現代の私たちへの主のご命令である。

《教会は島である》

大海原の中にボツンと浮かび、波に脅かされているように見える。しかし、島は水面下に大きな裾野をもっていて、そこには、神が備えてくださる神の民が大量にいる。神の民が御言葉を聞き、島の民となっていくことが期待されている。

島は孤独ではない。見えない裾野で島と島は繋がっている。一つの島で起こったことは隣の島へ、すべての島に影響する。小さな島の活性化は全体の活性化につながる。

4年前、小橋先生自ら新島教会を受け持ち、8人の信徒が12人に恵まれていた。島の牧会から滲み出た体験談とも言えよう。

我々は、主の道を倦まず



前北 未央さん

ボランティア支援調整役に心血を注ぐ



鎌倉市生まれ。藤沢教会員。エマオのボランティアから2011年7月、救援対策本部スタッフ。

前北さんが東日本大震災に遭遇したのは、千葉・八千代台の自宅だった。

震度5強、家具が散乱する恐怖を味わった前北さんは、テレビの映像を見て凍りついた。海拔50cmの江の島で生まれ、津波の恐怖を子どもの頃から感じて育ったからだ。

ご本人の言葉を借りれば、「重度のエマオ病(リピーター)」となつて被災地通いを繰り返すうち、災害担当の加藤誠幹事に見出されて、7月発足した教団救援対策本部のスタッフとなつた。

ボランティアとして前北さんが主に取り組んだのは、床下の泥かきだった。再び住むには、床下の汚泥撤去は必須だが、体格の大きな男性には難しく、剣道で鍛えた体の柔軟性を活かして前北さんは、活躍した。

「石巻、七郷(仙台)の床下事情には詳しくなつた」と屈指なく笑う。

エマオ・センター登録のボランティアとして前北さんは、10人いた

教会の祈禱会で「被災地のために私に出来ることがあれば」と祈って帰宅した前北さんに、教会から「東北教区のエマオ・センターがボランティアを求めている」との連絡が入り、即、参加を決断した。

「7割がノン・クリスチャンだが、初めて教会に足を踏み入れ、宿泊するうちに礼拝に出席する青年も現れ出した。前北さんは、私がもう10人いたら」と思う時もあるという。被災地のことを心から思い、痛みを分かち合える仲間が増えることを願っている。

2011 年度 日本基督教団宣教方策会議

◇日時 2012 年 3 月 5 日 (月) 14 : 00 ~
6 日 (火) 15 : 00

◇会場 鳥居坂教会
(東京都港区六本木 5-6-15)

◇主題

《伝道と伝道協力》
〈副題：共通理解と協働を求めて〉
主題講演Ⅰ『伝道とは何か』
神代真砂実 (東京神学大学)
主題講演Ⅱ『伝道と伝道協力』
平井 章 (日本キリスト教社会事業同盟)

◇発題

『伝道協力について』
宣教協力学校協議会、伝道方策検討委員会、東北教区、四国教区

日本基督教団宣教委員会委員長
張田 眞